

# NEWS RELEASE



2026年2月26日  
株式会社エアロネクスト

## エアロネクスト、モンゴル首都ウランバートル市で 血液製剤のドローン配送を7カ月で422回実施 ～経済産業省「グローバルサウス未来志向型共創事業」の成果を報告～

株式会社エアロネクスト（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 グループ CEO：田路圭輔、以下 エアロネクスト）は、経済産業省の令和5年度補正「グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（我が国企業によるインフラ海外展開促進調査：二次公募）」において実施した「モンゴル国／ドローンを組み込んだスマート物流の標準化実証事業」の成果として、血液製剤のドローン配送を社会実装し、モンゴルにおけるドローン物流のデファクトスタンダード確立に向けた取り組みを着実に前進させたことのお知らせします。

本事業では、交通渋滞や物流効率の低下が深刻なモンゴル首都ウランバートル市において、ドローン配送を組み込んだ都市型スマート物流モデルを構築・運用。2025年5月から11月末までの約7カ月で合計422回の定常配送を実施し、516人分の輸血用血液製剤を配送して5名の緊急救命に寄与するなど、命を支えるインフラとしての有効性と持続可能性を実証しました。

さらに、モンゴル国内における機体開発、モンゴルを起点とした第三国展開に向けた事業開発までを一気通貫で推進し、新興国に共通する物流課題に対する日本発ドローン物流モデルの海外展開可能性を明確に示しました。



血液製剤を物流ドローン専用箱に詰める  
スタッフ  
(ウランバートル市 国立輸血センター)



離陸前、物流ドローンに血液製剤の入った  
専用箱を取り付ける様子  
(ウランバートル市 国立輸血センター)



現地パートナー企業と連携した機体開発  
の様子

### 【本事業の背景と目的】

モンゴルにおいては、首都ウランバートル市の深刻な渋滞により、急を要する血液輸送や消費者向け即日配送の需要が顕在化しているが、自前のトラックによる輸送配送が一般的で、渋滞と人件費高騰が配送効率とコストの両面で課題となっています。また、配送の小口化・多頻度化による物流効率の低下とコスト増大は、国際社会においても特に都市部で深刻な課題となっています。

本事業は、こうした課題に対し、

- ・ラストワンマイルにおける物流手段の拡張（ドローン配送）
- ・ドローン配送を前提とした物流オペレーションの構築

を行うことで、「ドローンを組み込んだスマート物流」のデファクトスタンダードを確立することを目的に実施しました。

### 【本事業の取組概要】

モンゴル首都ウランバートル市においては、血液製剤という医療分野を起点にドローン配送を社会実装し、現地運航体制の構築と合わせて現地機体開発・整備の体制構築に向けた取組も行いました。また、将来的には郵便、フード、日用品などの生活インフラ分野への展開、さらにキルギス、ウズベキスタンなど類似課題を抱える第三国への横展開可能性を検証しました。

### 【具体的な成果概要】

#### 1) ドローン物流モデル構築

■ 医療における商用ドローン配送モデルを社会実装。さらに日用品配送のユースケースへ可能性を拡大

# NEWS RELEASE

エアロネクストの戦略子会社である株式会社 NEXT DELIVERY が運航全般のトレーニングを行った、モンゴル大手インフラ企業 Newcom Group の子会社である MSDD (Mongolia Smart Drone Delivery) が、2024 年に同国初の商用ドローン飛行ライセンスを取得して、国立輸血センターから市内複数の病院への輸血用血液製剤配送の商用運航を開始しました。本事業ではこの体制をベースに、以下の活動を実施し、ドローン配送ユーザー（医療機関）からは高い評価と感謝の言葉<sup>\*1</sup>を頂きました。

- ・国立輸血センターから市内病院への輸血用血液製剤の定期配送を 5 月に開始
- ・5 月から 11 月末までで合計 422 回の配送実施。516 人分の輸血用血液製剤を配送。
- ・国立輸血センターからウランバートル市内 14 カ所の病院への飛行ルートを確立。
- ・モンゴル郵便と共同で 2025 年 6 月の 3 日間、郵便物の試験輸送を実施。
- ・モンゴル国内最大手フードデリバリー事業者 TOK TOK LLC と共同で郊外の避暑エリアへ長距離（片道 16.5km）配送を実施。

## ■安全運航体制とオペレーション標準化

株式会社 NEXT DELIVERY と MSDD が協働して日本の安全基準に則った運航を積み重ねることで、オペレーションを標準化し、運航マニュアルも策定しました。また、モンゴル特有の、厳寒（冬季-20℃前後\*）、高地（標高約 1,300m）、都市部での運航（ウランバートル市）といった厳しい条件下での運航経験を積み重ね、実運用に耐える安全運航の検証と体制の確立に尽力しました。（\*運用時は-10℃以上）

## 2) 機体開発

### ■“世界一寒い首都”で通用するドローン機体開発の知見を獲得

現地パートナー企業と連携し、寒冷・高地・強風という過酷な環境下でも安定飛行可能な機体開発を実施。量産開発や寒冷地向けドローン開発に資する重要な知見を獲得するとともに、低価格かつ高品質なドローンの製造・供給拠点としての可能性を示しました。

## 3) 事業開発・第三国展開

### ■キルギス・ウズベキスタンでのニーズ確認と関係構築

両国におけるニーズ調査やパートナー開拓を行い、医療配送を起点とした事業展開や、キルギス航空学院と連携したパイロット育成など、第三国展開に向けた具体的な議論を実施して、早期の実証実験実施を見据えています。

### ■Newcom Group との関係強化

モンゴル国内で血液製剤のドローン配送に対する社会的評価が非常に高まったことで、パートナー企業である Newcom Group との関係もより強化されました。出資・共同事業推進を含む次フェーズへの検討が進んでいます。さらに、2022 年からの Newcom Group とのパートナーシップを評価したモンゴル大手物流会社との関係構築や、ロータリークラブからの MSDD への機体寄贈支援といった進展もありました。

以上

【ニュースリリースへの報道機関からのお問い合わせ】

株式会社エアロネクスト 広報部 (担当：伊東) Tel: 03- 6455-0626 Email: [info@aeronext.com](mailto:info@aeronext.com)

資料

\*1 血液製剤のドローン配送ユーザー（医療機関）の声

### Jagaa 氏（母子センター）

車だと片道 15 分、往復で 30 分以上かかります。血液が届く頃には患者の状態が悪化していることもあります。1 分 1 秒が重要で、命を救うこと、母子を救うことは家族にとって大きな喜びです。ドローン配送で 5 人の患者が危機的状況から救われました。「お礼の手紙をドローンに託せますか？」と聞かれることや、写真を撮る人、ドローンを追いかける人もいます。

### Davaasuren 氏（バヤンゴル区保健センター）

私は 32 年間血液の仕事をしてきましたが、「1 分でも貴重」です。主に緊急時に使用しており、車では間に合わない状況が多いですが、ドローンはとても簡単で 6~7 分で届き、業務が大幅に楽になりました。

# NEWS RELEASE

た。私は 4 つの病院を車で行き来し、患者・子ども・ワクチンなども運んでいますが、ドローンを注文している間に他の仕事ができます。外科医たちも非常に喜んでます。

【株式会社エアロネクストとは】

エアロネクストは、「人生 100 年時代の新しい社会インフラで、豊かさが隅々まで行き渡る世界へ。」をミッションに掲げ、低空域を活用した今までにない新たな価値創造を推進しています。重力、空力特性を最適化することで、産業用ドローンの基本性能や物流専用ドローンの運搬性能を向上させる独自の機体構造設計技術 4D GRAVITY<sup>®</sup>を提供する技術ライセンス事業、ドローン関連技術の共同開発や開発受託を行う共同開発事業を展開しています。また、戦略子会社株式会社 NEXT DELIVERY を通じて、地域の物流を集約化、効率化していく新スマート物流 SkyHub<sup>®</sup>事業、日本有数のノウハウと実績を持つチームが最先端の技術とスキルで推進するドローン運航事業を展開しています。SkyHub<sup>®</sup>事業は、すでに国内の複数地域で社会実装され、多くの課題を抱える地域物流の課題解決の貢献を推進しています。

\*会社概要は <https://aeronext.co.jp/about/company/> をご覧下さい。

\*エアロネクストおよびエアロネクストのロゴおよび、「4D GRAVITY (R) 」は、株式会社エアロネクストの商標です。

\*その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。